

# 教養演習





























## 【応用編】レポートの書き方

自分の考えを述べるのが、すなわち論文を書くということなのではありません。正しいことを言うというだけならば、「私は今朝コーヒーを飲んだ」というのも、正しい主張です。しかし何事かを論じようとするのなら、普通は殊更「私は今朝コーヒーを飲んだ」というようなことを論じません。

では、なぜある事柄を言いたくなるのでしょうか。それは、レポートにおいては、ある事柄に対して、そうでない意見があるからです。だから自分と異なる意見の人が想定され、その人に向けてその人と異なる自分の主張を展開することが問題となります。これが、なにごとかを主張することの基本でしょう。

自分の言いたいことを述べなくてはならないとしても、そのためにはなぜ自分がそれを言いたいのか、したがって何であるかを明確にするためには何でないかをも、明らかにする必要があります。

**ポイント 自分の言いたいことが何でないかを明確にする。**

というのも、論文とは、そもそもそれが教師であってもなお、自分と異なる他者と対立する場であるはずだからです。具体的に以上の事柄について、考えて行くために必ず一つの課題を想定することにしましょう。

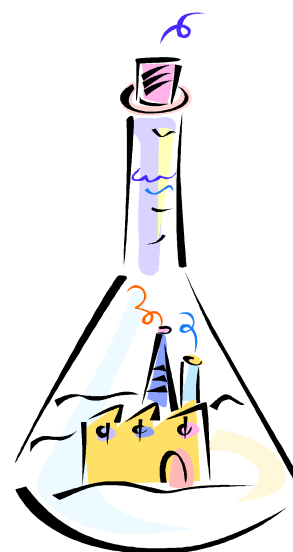
そのテーマのもとで問題を見出し、それを独自の視点から、論じてゆくところにレポートの存在意義があります。

・・・仮にここでは「自然保護」をテーマに選んだとして書き方を考えてゆきましょう。このようなテーマ設定では、その前提に「自然保護」大事という価値前提が横たわっているでしょう。問題を見つけるさいには、そのおおもとの価値前提にさかのぼることが重要です。ここから色々な議論の発展性が見えてきます。もし「自然保護」大事でなければ、穏当な主張として「自然に手を加えるべきでない」という提言ができます。

ここからが腕の見せ所です。なぜ=Why そう言えるのかを書かなくてはなりません。そもそも自然保護には人間中心的な発想があって、自然破壊と同様の人間のエゴみみたいなものは感じられないでしょうか。つまり、人間こそが自然を何かするものだ、という人間の視野の狭さゆえに、自然保護はいけないのではないのでしょうか。

では、この人間の介入という要素を敬遠した自然保護として、どういう〈かたち〉に昇華してゆけばよいのか・・・おそらく自然への介入の手を切るということでしょう。その文脈で自然破壊活動防止運動といったアイデアもでてくるかもしれません。

ただし、自然破壊は、人間にとって不可避ではないでしょうか。なにより、実際、病原菌の根絶を前提にした保健の価値観のなかで、自然の一部の抑圧が為されています。とするなら、「自然に手を加えるべきでない」という要請を、いかに整合的に、人間の保健の文化に取り込めるか、という新たな問題も出てきます。



### 【レポート作成の注意点】

- ①責任あるレポートの作成・・・何をしたいのか・何を見出したのか・その結果から何を導こうとしているのかを明確に記述する。
- ②レポートの執筆者として記載されるためには応分の執筆に参加していなくてはならない。
- ③著作権の留意。
- ④引用の要件・・・これらがちゃんと出来ているか、チェックしなさい。  
ア)既発表の著作物 イ)引用が公正な慣行に合致すること ウ) 正当な範囲内の引用であること エ)引用が従・本文が主の関係 オ)引用符号で引用すること カ)引用の必然性があること キ)出所の明示が不可欠

### 【文献の書き方】

- ◆書籍の基本情報は、著者名『書名』出版者、出版年。
- ◆論文の基本情報は、著者名「論文名」『誌名』巻号、出版者、出版年、掲載ページ。(論文名の括弧は一重、載っている学術誌名は二重)
- ◆ウェブ上の文献の基本情報は、サイト運用者：サイト名、ページ名、URL (存在確認日時)。

例：

- ★一般書の場合 (論文集の場合)： 久保文明編『アメリカの政治』弘文堂、2005 年
- ★新書の場合： 西尾成子『現代物理学の父ニールス・ボーア』中央公論社 (中公新書 1135)、1993 年
- ★翻訳書の場合： ガブリエル・タルド (稲葉三千男訳)『世論と群衆』未来社、1964 年
- ★論文の場合： 田端暁生「管理社会論と情報社会論：転換点としての『1984 年』」『神戸大学発達科学部研究紀要』6 巻 2 号、神戸大学、1999 年、141 - 152 頁
- ★ウェブ文献の場合： 総務省：情報通信白書平成 15 年版、第 1 章第 5 節「全国の情報流通」：<http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/whitepaper/ja/h15/> (2005 年 9 月 18 日存在確認)

### 【引用の方法】

#### 注の付け方：その 1

本文中にかっこで注番号をふっておき、文末にまとめて文献名、引用箇所を列記する。

例：

「……という統計がある」(注 1)。

注

- (1) うずまきナルト『チャクラの練り方』木の葉出版、2005、pp. 135-7。

#### 注の付け方：その 2

本文中にかっこで、簡易に示した文献名を示し、引用箇所を入れる。文末には文献一覧をつけ、基本情報を詳しく列記する。

例：

「……という統計がある」（うずまき, 2005, p.135）。

文献一覧

うずまきナルト (2005). チャクラの練り方, 木の葉出版.

### 長く引用する場合

字下げを行い引用部分を明確にして本文中にブロックで組み込む。その際、上記のふたつの方法のいずれかで引用元を明記する。

例（その2の方法で文献を明記した場合）：

……という議論がある。

小学生のインターネット利用率は近年、ますます上昇を続けている。このままでは各家庭に一台はおろか、各部屋一台の時代すら間近にせまっているようにすら感じられる。この事態に対して目くじらをたてる大人が多いが、これは実はテレビの普及時にもパラレルな議論がみられたことを喚起したい。（うずまき, 2005, p.135）。

つまり、このエッセイに書かれた問題意識からすれば、……

以上については

<http://www.res.kutc.kansai-u.ac.jp/~ckita/how-to-report.html>2017/12/28

〔文献一覧〕 順不同

野矢茂樹、2006、『入門！ 論理学』中公新書。

野矢茂樹、1997、『論理トレーニング〔旧版〕』産業図書。

野矢茂樹、2006、『論理トレーニング〔新版〕』産業図書。

アンソニー・ウェストン、2004、野矢茂樹他訳『ここからはじまる倫理』春秋社。

今田高俊、2004、「福祉国家とケアの倫理」塩野谷祐一／鈴木興太郎／後藤玲子編『福祉の公共哲学』東京大学出版会

菅野和夫他、2007、『ポケット六法 平成20年版』有斐閣。

デアを生み出すにはどうすればいいのか。そのためのすばらしい方法が、でたらめ連想法なのだ。

たとえば、ハインツのジレンマを突きつけられたとき、辞書を開きでたらめ連想をしたとしよう。引いてみると、まずは「オーボエ」が目飛び込んできた。「オーボエ。」目に出してみる。「完結きついなあ。」しかし、考えてみる。オーボエってのは楽器だな。インドではコブラを操るのに、オーボエに似た楽器を使うんだっけ。もしかすると、ハインツは楽師を、何とかがて操れるかもしれない。でもどうやって？ うーん。それは分からないが、でもとにかくもういちど楽師と話し合ってみるといいかもしれないぞ。

オーボエに戻る。楽器は演奏するものだ。それにはいろいろと技術がいるな。ハインツも技術をもっている。そうか！ こうして考えが、技術と筆を引き換えにすることへと向かうかもしれない。次に見つかったのは「筆」。一葉の紙。「人生のページをめくりますか？」「読書を読んでください。」（うーん。未来を占うのお茶の葉を使ってたんだっけ。この葉が効くて、どうやったら分かるのか……。）もしかすると、ハインツ夫人は葉の代わりに葉っぱを使うべきなのかも（ハーブ療法ってあったかな）。こんなふうにして、考えがほぐれはじめるというわけだ。

〔資料〕 でたらめ連想法